

Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 小原 得雄 編集責任者 足立 聡 印刷所 東京印刷(株)



とびきり鳥取夢発信!

—山陰夢みなと博覧会衛星2元生中継を終えて—



小原 得雄 会長

昨年、その計画を初めて聞いたとき、「いい思いつきでいいんじゃない、やってみれば」といったような感想しか持ち合わせていませんでした。しかし実際それは、私の想像をはるかに超えたものでした。

生放送というのは、出演する者、スタッフのすべての動きが、あらかじめ決められた時間内に収まって進行していきます。「やり直しはない」という緊張感の中で、我々は、ズブの素人でありながら素人であってはならないという、中央会活動の中で嘗てない経験を強いられることになりました。それでも、番組制作のプロである目次委員長の、このイベントに寄せる熱い思いに何とか応えようと、関係者全員が自らを鼓舞することができたのは、中央会の「英知、友愛、団結」の裏打ちがあったからに他ありません。終わった後のスタッフの涙がそれを存分に物語っていました。番組の出来は、決して満足のいくものではなかったかもしれませんが、少なくともわれわれに今までに経験したことのない清々しい達成感を感じさせてくれました。

この経験を糧に、われわれ西部青年中央会は、今までに増して研鑽を積み、地域の発展のために活動を続けて参りたいと思いを新たに致しております。

松本 啓 実行委員長

「俺たちはとんでもないことをやろうとしているんだ…」心底そう感じたのは、不覚にも本番6日前の全体会議の場であったように思います。それまでは大変なイベントをやろうとしているんだという意識はあっても、全く未知の分野のことでもあり正直のところ「目次君がいるからなんとかなるだろう」などという持ち前のアバウトさで、タカをくくっていたところが多分にありました。

庶務全般を一際取り仕切ってくれていた山中隆司君の如水館高校の甲子園出場（本当は実に喜ばしいことだったのですが）、前日のドライリハーサルや当日朝のリハーサルの様子からは、本当に大丈夫なのかなという不安が頭の中を駆けめぐっていました。にも拘らず、本番ではここ一番に強い青年中央会の行動力と団結力を遺憾なく発揮して大成功。

これも一人一人が自分の与えられた持ち場をきっちりこなした結果であると強く感じております。

目次 俊夫 ディレクター

中央会だからこそ、中央会しか出来ない、中央会メンバー手作りによる全国衛星生中継番組「とびきり鳥取夢発信!」。お陰様で大成功に終わりました。今、あらためて思い起こせば数々のシーンがよみがえります。

直前会長とこの番組を企画し、会員の皆さんと関係各所にお願いにまわったこと…、地域ビジョンの皆さんと会議を重ね、VTRの撮影を行ったこと、特別委員会の発足と連日に及ぶ会議、深夜に及ぶセッティング、睡眠不足で迎えた本番当日の朝、30度を超す炎天下の中での汗だくになりながらの本番…、そして打ち上げのビールの実に美味しかったこと。出演者の皆さん、裏方の皆さんお疲れさまでした!

この一年間は私にとって、貴重な体験をさせて頂きました。また本番は、今まで体験したことのないスリルとサスペンスの2時間でした。

中央会による中央会メンバー手作りの番組ということでマスコミにも大いに注目されました。地域情報発信の新しい形として、また中央会の歴史に於いても大きな足跡を残したものと思います。

一般視聴者の皆さんからも様々な意見や感想を頂きました。中央会への励ましや、鳥取、高知、みなと博を認識して頂いたことは、本当に嬉しい限りです。

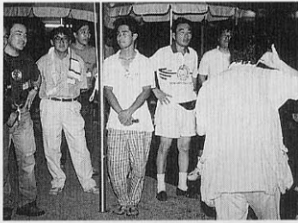
1997年8月3日。あの貴重な2時間を皆さんと共に一つになって過ごしたことは、私にとって何ものにも代え難いものとなりました。改めて中央会の素晴らしさを実感し、中央会に在籍していることを誇りに思っています。



今回のイベントを開催するに際し、鳥取県団体中央会様をはじめ、鳥取県、博覧会協会、境港市観光協会、高知中小企業団体青年協議会の皆さん、また番組に商品を提供していただいた鳥取、高知の各企業の皆さん、高橋OBを始めとする山陰ビデオシステムの皆さん、また各OBの方々本当にお世話になりました。

本当にありがとうございました。

前夜の最終ミーティング



とびきり鳥取夢発信! = 激動の2日間 =



膨大な量の機材の搬入



インプレッション



オレは角田だ!
文句アッカ



司会「宮廻 裕和」

「汗だくである。緊張感と不安の入り交じった汗といってもいい。司会役の山口さん、原さんそして私と三人のかけ合いで始まった。FDのIさん、顔がひきつっている。同じくFDのNさん、あせりまくっている。そんなメンバーの様子を一見冷静な顔をして見ているつもりなのだが、次は、次の段取りはと考えると流のように流れる汗。私の横、山口さん涼しそうな顔「山口さん、汗かかないんですね。」山口さん「顔には汗をかかないんだけど体の中はビショリよ。」

後日、原さん、日焼けのため左手やけど。
FD・Nさん、一週間仕事手につかず。
FD・Iさん、ハイテンションのまま。
そして私、ツラの皮ボロボロ。

フロアディレクター「柴谷 政司」

とびきり鳥取夢発信!
フロアディレクターくたびれました!
「目次君、何か手伝う事あったら言ってよ!何でも手伝だーけん」この不用意な一言から地獄が始まったのである。

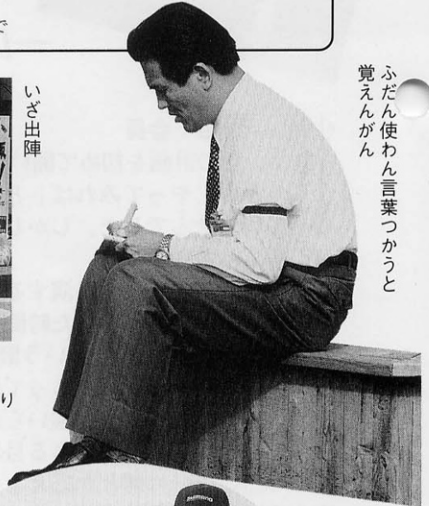
前日の(正確には当日の朝である)中継準備が完了したのが午前3時半。SVSのスタッフを残して、逃げる様にして現場を後にした。約1時間の仮眠の後、いざ出発!

午前中、何度かのリハーサルもあつという間で、いよいよ13時オンエア!ケーブルにひっかかってこけそうになったり、インカムのとどなり合い?(イヤ、一方的にどなられただけか?)の間に番組終了!!

久しぶりに何かウルウルと込み上げるものを感じたのは、私だけだったのかなー。

皆さんありがとう、ご苦労様で

ふだん使わん言葉つかうと
覚えんがらん

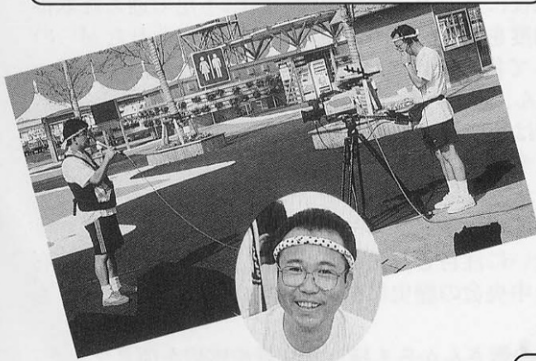


いざ出陣

フロアディレクター「市位 清明」

「ゲート前より番組をスタートします。スタートがつまづいたら最後までガタガタになりますのでよろしく」

素人の私に重くのしかかるこの言葉を聞いたその時から、両手を広げ、指を折る練習が始まりました。'10.9.8...スタート' 本番当日まで練習を繰り返しました。指折り数えながら待つのがこんなに苦痛に思えたのは、後にも先にも、たぶん今回が最後だと思います。貴重な体験をさせて頂き有り難うございました。



你好!
烏龍茶はやっぱり
中国よ!



何だか分からんけど
ボクたち幸せ!

レポーター「戸野 雅弘」

思いがけずレポーター役を押し付けられ、どうなることかと不安ばかりが募っていった。そしていよいよ本番当日。午後1時市位会員の合図で本番スタート。自己紹介、会場施設の紹介と打合せ通り順調に進行していく。来場者インタビュー、そして最後に全員がメイン会場に集合してお別れの挨拶。終わった瞬間、胸に熱いものが込み上げてきた。みんなが与えられた役割を120%果たしてなし遂げた衛星生中継。皆さん本当にお疲れ様でした。

見よこの集中力



レポーター「景川 恭次」

8月3日大変な1日だった、そして思い出に残る1日でした。
午前7:30会場の集合場所に、何か緊張感が伝わってくる。柴谷フロアディレクターの顔から普段の優しさが消えてしまい、小原会長は一人黙々と立ち木に向かって何度も原稿を読んでいる。2時間生放送なんてプロでもすごい事ですよ、今日コンビを組む東京ボードビルショーの小林美江さんから聞き、不安が心をよぎる。

午後1:00宮廻さんの声で順調に本番スタート。
1回目出番、レポーター4人で自己紹介何とかなった。
2回目からは夢みなどレディーを交えて環日本海交流村の説明。
女性に囲まれ本日最高の時間と思いきやリハーサルでは無かった強風の影響で声が届かないと湯原チーフディレクターより怒りをこめた指示をもらい悪戦苦闘が聞こえていない部分もあったが何とか終えてエンディングを迎える。無事終えて良かったの一言に尽きた関係者全員の方に感謝を申し上げたい。

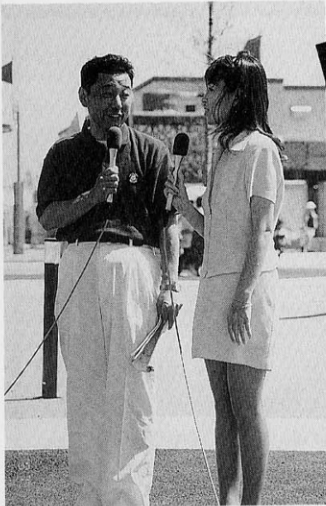
後日ビデオを見たOB(ゴルフ同好会会長)より一言「女性の腰に手を廻す癖は直した方がいい」と言われ、よくビデオを見直すと本当に必ず女性の腰に手が廻っている。朝日町の癖がこんな所に出してしまった。当分デュエット曲は歌わないようにしよう。

オレは何故
ここに居るんだ...



いい女の傍には何故か必ずこの人が...

この人はやっばり
この役が似合います



「山本 良文」(高知班)

甘い誘いに乗り超大型台風の中、下準備に行ったがはーあ。当日のトラブルも原ディレクターを中心に解決され感心。高知にも威勢の良いおにいさんと、覇気の無いおにいさんがいらっちゃった事。帰りに与島で、JAFのおにいさんに大変お世話になり爆笑。帰りが遅くなったものの米子へ到着した後、スタッフの皆が暖かく盛大に出迎えてくれ感動。初体験のなか、全ての皆さんにありがとうございました。



スタッフの表情から
笑顔が消えた

フロアディレクター「中津尾 直己」

PART「頭にきたこと、怒ったこと」編
喜怒哀楽編の「怒」について原稿依頼でしたが、特に無いんですね。でも、強いて言えば「自分自身に頭にきたこと」でしょうか。
まず、リハーサル前に台本を見てもFDとしての自分の役割や動きがいまひとつつかみきれず、漠然としたイメージしか思い浮かべられない能力の無い自分。そしてまた、恥ずかしい話ですが、本番中に（高知の放送が入っているとき）、ふと「この異常な緊張感をもった状況から逃げ出したい」という気持ちになってしまいました。そのときに「何考えてんだ、バカ！」と心の中で自分を叱っていました。

仕事は何時まで？
電話番号は？



受け応えは手慣れたもの

着ぐるみが見えなくても
らしくみえるこのひとは



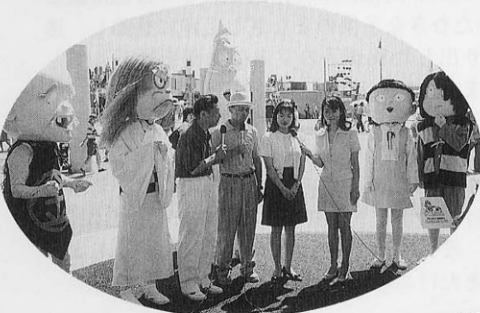
終了間際
ファインダーが涙でにじむ

カメラ「釜田 公文」

それにしても暑い一日であった。それぞれの会員が一年の思いをこの日に掛けていた。そしてやり遂げた後の開放感、私の顔はスタッフと会員によってお絵書帳ならぬお絵書顔と化していた。しかし不快感はなくむしろ妙な一体感と、いいしれぬ快感さえあった。人間は感動を心の糧とする生き物であると私は思う。そう言う意味で今回の番組製作に参加でき、大変な御馳走を頂いた気がした。これからも中央会の活動に出来るだけ積極的に参加する事によって心の糧を頂いて行こうと思う。中央会には御馳走がたくさんあるのだから。みなさんもお一つどうぞ。



全員揃ってグランドフィナーレ



この笑顔がすべてを表していますね



何なのこの人たち
もしいや

（ハヤ）（ハヤ）

○★×?



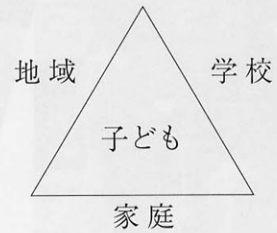
8月例会報告

先月20日、国際ホテルにおいて、8月例会が行われた。小原会長の「例会・委員会の出席は義務」という方針にもかかわらず出席者は98名と、三桁には今一步だったが、9月以降に期待したい。会長の挨拶のあと、第1回目「担当委員会タイム」として、政治行政委員会の河端明彦会員より15分間のスピーチがあった。

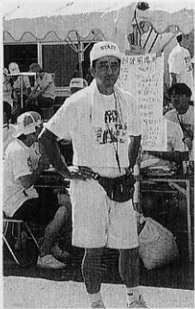
つづいて、米子女学園校長というよりチャールズ会幹事長である小谷悦夫氏を迎え、『上手な褒め方・叱り方』という演題で講演いただいた。小谷氏は30年以上にわたる教員生活を通して、体験・実話に基づいた様々な例を引用して話された。

「褒め」はもともと田植え時（仕付け時）から来た言葉であり、初めが肝心—とくに3・3・3（3歳・小学3年・中学3年）が重要—とのこと。皆さん心してください。そして褒めの柱となるのが「褒める」「叱る」であり、そのポイントとして、①他人と比較して褒めたり叱ったりしない。②結果だけを見ず、「過程」もよくみて褒めてやる。③過剰な褒め方は効果が少ない。事実に基づいた褒め方をする。④間接的に褒めると、効果絶大！⑤「褒める」ということは子供のおかれた境遇に共感してやることである。⑥褒め

たり叱ったりする側も心に余裕を持って、子供のいうことをよく聞いてやること。などをあげられた。子供は地域・学校・家庭の三角形の中にいるが、ベースとなるのはやはり家庭ということだ。



話は「子ども」に対してのものが中心であったが、会社での部下・社員や、その他の人間関係についても通ずるものが多かった。最後に私事になるが、私自身も高校三年の時に「小谷先生」に担任していただき、現在の方向を決める恩師と出会えたことに感謝したい。



第3回 オールジャパン ジュニア トライアスロン IN 岸本

「さあ、集まれ！小さな鉄人たち。」

夏休みもおしせまった快晴の8月24日3回目を迎えた「オールジャパンジュニアトライアスロン」が岸本町総合スポーツセンターで開催された。地元を中心に参加人数も着実に増え、今年はりレーも含め1都1府8県より282人のチビッコ鉄人が熱きゴールを目指した。

OBも含めた我が中央会々員と通称「ちびトラ」との関わりについて拝見していると3つのタイプがあるようだ。①行事運営のプロとして、プログラムの淀みない進行と競技参加者の満足度、賞賛に感動を求め人 ②皆生トライアスロン同様に奉仕作業を通じて自己研鑽と友愛を深めてゆく人 ③ひたむきな子供のまなざしと汗に感動し、送り出した我が子の完走に目頭を熱くしてしまう人である。

どのような関わり方であれ岸本町で「ちびトラ」はしっかり根づいてきたし、我が中央会の面々もそれぞれの達成感をおみやげにサポートが続けてゆければよいと思う。

また来年、子供の汗と親父の涙がちょっとだけふれあう…。



◀..... 会員の子供たちも頑張りました。.....▶



野嶋 央絵ちゃん



石谷 宏司君



景 智隆君



小林 壮平君

8月度委員会報告

政治行政委員会

平成9年8月8日(金) 於：米子食品会館 出席者/11名

演題/「『崎津工業団地』って何処の誰」

講師/角田茂樹氏

内容/1. JRA誘致の賛否が当面の課題など講師より粗筋の説明を受けフリートーキングを行う。

記録者の感想として、中央会としてJRA誘致の賛否を会員にアンケートしてみてもは。

2. 8月担当例会について

社会プロブレム委員会

平成9年8月11日(月) 於：米子食品会館 出席者/13名

内容/1. 9月担当例会の打合せ

2. 安藤会員より小倉JRA視察の話聞く

地域ビジョン委員会

平成9年8月7日(木) 於：米子食品会館 出席者/9名

内容/1. 小原会長を囲み、継続委員会としての活動の経過、及び今後の活動目標について話し合った。

広域合併について(市、町、村)

地方分権にそなえる研究の成果がほしい

議会等にアンケート調査をする

県外視察例 etc.

2. 10月担当例会の講師、委員会タイムの使い方について

経営委員会

平成9年8月6日(水) 於：大連 出席者/11名

演題/「経営研究会の活動及び規制緩和の下での活路開拓について」

講師/岡山県卸センター経営研究会

会長 赤木博志氏

同直前会長(現岡山県青年中央会副会長)

嶋井康泰氏

内容/「規制緩和」により今後一層の価格破壊が進む中、卸センターのあり方が問われている。

現況として半小売(卸値)半卸しと卸売自体が時代にあわなくなっている。山陽側の事と考えるのではなく、我々中小企業全体の問題として弱肉強食の時代、交通・通信が進む中、早めに手を打っておく事が必要と思われた。

情報メディア委員会

平成9年8月6日(水) 於：日本海情報ビジネス専門学校 出席者/11名

内容/インターネットセミナーを、サンメディア畑中会員を講師として開催。

インターネットの概略を聞いた後、実際に全員がパソコンを操作して色々なホームページを見たり、当会のホームページの現状を把握した。



金融委員会

平成9年8月18日(月) 於：米子食品会館 出席者/13名

内容/今月は、内部講師として住友生命の佐々木会員、鳥取銀行の山上会員に各企業のビッグバンへの対応等についてお話をお願いした。

活発な質問、意見が各委員より出され、時間終了までそれが続いた。

広報委員会

平成9年8月6日(水) 於：米子食品会館 出席者/8名

内容/1. 役員会報告

2. 9月号、10月号ハンサム編集について

総務委員会

平成9年8月11日(月) 於：ホールサムイン皆生 出席者/14名

内容/1. 役員会報告

2. 平成9年度総会、懇親会の反省

3. 新入会員オリエンテーションカリキュラム検討について

4. その他、パンフレットの作成の件

21地球委員会

平成9年8月4日(月) 於：米子食品会館 出席者/9名

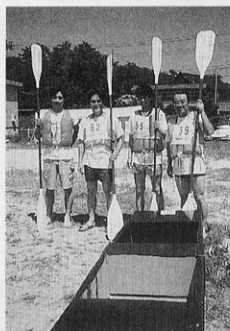
内容/委員会内を3班に分けてテーマを設定するとし、各委員より意見を求めた。

中海の汚れ、オゾン層破壊、森林伐採、ゴミのポイ捨て、リサイクルなどの環境問題について活発な意見が続出し、結局テーマとしては設定できなかったが、「人間の欲望」が環境を破壊している事を改めて皆で確認した。

次回の委員会はリサイクルプラザ見学と決め、見学後に討議する事になった。

第4回

湖山池ダンボール手作りカヌー大会 に参戦報告



摂氏32° 湿度70%越。予想通りの好天に恵まれた第四回湖山池ダンボール手作りカヌー大会。我が西部より4人の精鋭が日頃の夜間歩行?の成果を見せんとばかりに、湖山池へと乗り込んで行きました。道中、白兎海岸を通過しようとした時、目覚めの悪かった我々をふるい立たすかの様な挑発的なビキニ姿の女の子に刺激され、準備運動も万全。到着と同時に東部の会員の方々の暖かい出迎へと、おもてなしに感激。10時にいよいよレース開始。我が西部は午前の部最終前のレースとあり、松本直前会長、秋田県会長、松本(正)会員、橋本会員4人ともリラックス模様。アナウンスにより、それぞれのエントリーナンバーが呼ばれ、東部の会員の制作によるカヌーを手にする。

昨年のカヌーの話を知っているだけに多少の不安はありましたが、その不安をものともせず、4選手は賞金20万円を手中に収めたかの様な目つきでオールさばきを練習している。水の中での様子をイメージトレーニングしているのであるが、いざレースが始まると…。秋田県会長のカヌーは本部席前で水没。水中に身を投げ出され、拍手と笑いの渦。し



かし県会長がなかなか水面に顔を出さない。溺れたか? ライフジャケットを付けていたが…と不安になった。数秒後、池の水を飲みながら水面に顔を見せ、みんなを安心させた。これも一つのパフォーマンスだったのだろうか。

次なるレース。松本直前会長の出番だ。風はアゲンスト、カヌーもやや原始的なシンプルな作りで逆風を受けやすいそうだ。号砲と同時に、いいスタートを切るが、なぜか他の選手を尻目にクルクルと池の中をたわむれるかの様にカヌーを回転させている。ゴールの位置を間違えたのか、それとも陸上でイメージト



レーニングをした通りだったのか。ご愛敬だったのか。なんとかカヌーを進行方向へ戻し、なかなかのレースになったが…。今度は、風のいたずらか、なかなか前へ進んでいる様に見えない警備の為のボートに乗っているボランティアの方に何やら話しかけている様子も伺える。たぶん自分が進んでいない事を確かめているのであろう。東部、中部の選手はすでにゴールをして陸から激励のヤジが飛びかう。やっとの思いでゴールをした時の直前会長の顔には、カメラをかかえシャッターを切る私へのうらめしさが少し感じ取れた様にも思えた。

賞金20万円には程遠いタイムではあったが、橋本会員と松本会員の奮闘に多少西部の面目が保たれた様にも思えた。来年は勝てるカヌーを作り本気で勝負してみたい気持ちにもさせてくれる一日であった。皆様本当にありがとうございました。東部の皆様、準備から運営までご苦労様でした、とエールと送りたい。

聞いてごしない Part 11

あなたは「デブ」です。

いつも通りの結果とはいえ、ショックを隠しきれなかった。

当社においても、例年恒例の健康診断がこの間も滞り無く行われたのである。尿・血圧・血液・肝機能検査ともに異常なし、コレステロール・中性脂肪値も正常範囲である。どうして、体重だけ毎年増え続けて行くのだろうか。

父母も、おじいちゃんおばあちゃんも「デブ」ではなかったのに何故であろうか。決して、不摂生・不養生・暴飲暴食の限りを尽くしてきた訳ではない。俗に言う水を飲んでも太ってしまう体質なのである。俺は未だ、幼年期あるいは思春期迎りの发育過程にあり、成長し続けているのかもしれない。

我が家の脂肪値が計れるヘルスメーターには、嫁がいる前では未だかつてのつた事が無いのである。もちろん、健康診断通知表も家に持ち帰った事はない。嫁さんが横になった腹を見ては、「餅が流れてる〜」、「垂れるのは赤ちゃんのよだれだけで良い。」等と言うのであるが、貝になりじっと堪えながらカッターシャツにスーツ・ズボンのはたまたまポロシャツ・下着に至るまで、毎年季節の変わり目には買い換えをしてもらわなくてはならない。嫁さんは更に、運動を盛んにやっていた学生の頃、20kgの砂袋を背負って毎日登校し授業を受けるのが、どんなに大変で苦痛なものかを想像してみなさいというのである。ごもつとも。

こんな僕ではあるが、今年副会長に就任致しましたし、これをきっかけにと一念発起し腹筋・腕立て伏せ・腰痛体操などを取り入れて身体を鍛えようとして決めたのです。現在進行形で、2週間経ちました。後10ヶ月継続したら、きっとトライアスリートの様な立派な体つきになる事間違いないと思ってこの原稿を書いています。皆さん期待して下さい。もう「デブ」とは言わせない。絶対やるゾ!!。

あ〜終わった終わった。

「お〜い、ビールとピーフジャーキー持って来てよ…」

うわばみ

9月例会案内

と き 9月22日(月) PM7:00開始 PM6:30受付開始
 ところ ホテルわこう
 講 師 太田法律事務所 弁護士 太田正志氏
 演 題 社会問題を法律家の視点から
 (少年法改正、尊厳死、等について)
 担 当 社会プロブレム委員会

9月役員会報告

9月定例役員会が9月1日(月)、米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
 (1) 9、10月例会開催の件
 (2) OB交流会開催の件
 (3) その他
 ※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

編集後記

『近すぎてなかなかいけないみなと博』子供や妻にせがまれても「境だがない、すぐそこだがない、いかかと思えばいつでもいけがない」と言っている間にあとわずかで閉幕。あーそろそろトリピーに会いに行こうかな…